

㈱シー・ティー・ワイ 令和4年度 放送番組審議会

今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、書面開催にて実施。事務局が用意した番組を各委員に視聴していただき、回答書の返信をもって番組審議を実施した。

実施日・・・令和5年(2023年)2月

参加委員・・・伊藤八峯委員長・三輪秀孝副委員長・石井智光氏・松井真理子氏・森亜希子氏

1. 番組審議①

特別番組「負けられない戦い～コロナ禍の地域医療は今～」

(CTY・CNS12ch/コネクト配信) 30分

令和4年(2022年)6月放送

新型コロナウイルスの感染者が日本で初めて発生してから2年が経過。医療現場には、私たちのために戦い続けている医療従事者がいます。いなべ市で地域医療を担う「いなべ総合病院」で患者の治療にあたっている医師や看護師を追い、病院と地域とのつながり取材しました。

●我々が経験したことのない、新型コロナウイルス感染症が日本中、いや世界中にまん延して、その恐ろしさが連日報道され、感染予防対策が追い付かず入院者が溢れ医療機関がひっ迫し多くの死亡者が出ました。現在、第八波で感染状況は高止まりながらも行動制限がなくなり感染予防に十分気を付け、日常生活がやっと戻ってきました。しかし油断は禁物です。医療機関、特に医師と看護師の方々のご苦労には察して余りあるものを感じます。現場は壮絶な現状だったかと思います。いなべ総合病院の患者治療の様子を見て、その大変さを改めて感じました。医療機関を担う病院があるからこそ安心して暮らせることに感謝です。

●新型コロナウイルス感染拡大による病院の激務に焦点を当てた番組かと思われましたが、何故新型コロナ患者を受け入れたのかを解りやすく伝えていた。基幹病院の矜持と地元感謝の内容が非常に共感出来た。そして医師・看護師の方々の奮闘も伝わり、改めて医療関係者の方々に感謝を申し上げたいと思いました。

●コロナ禍における医療従事者の問題は一般メディア報道では一部しか知ることができないが、身近な地域でどのような事が起こっているのか、内部を取材しなければわからない大変よい取り組みだと思う。

医師・看護師それぞれの立場から病院のゾーニング、発熱外来、入院患者への対応など、きめ細やかに描かれており、特に感染管理認定看護師という職種や、保健所との連携により患者の受け入れが全体的に決定されることなど、新たに知ることができた。

「医療と地域」で一貫したストーリーであり、コロナ患者を受け入れる病院としてのリスク、それを乗り越える医療従事者の地域貢献意識、さらにそれ以前の病院の存続を図るためのいなべ市の医療受け入れ協定など、深みのある取材に感心した。

さらに医療従事者への差別への言及など医療従事者へのあたたかい目線にも好感が持てた。

●CTYならではの良い番組内容だったと思います。地域の医療従事者のリアルな姿が映し出されていて、想像では大変だろうなと思っていたことを実際の映像として見ることができたので、改めて医療従事者の方のご苦労や負担が理解できた気がします。ただ要点がつかみにくく、もう少し端的にわかりやすく、見出しやテロップをつけたり、項目に分けるなどして、少しまとめ方を工夫すると、もっとわかりやすく、伝わりやすかったのではと思います。

というのも、なぜ、いなべ総合病院をとりあげたのかということが、テーマになっていると思いますが、出だしのインタビューのカットではそれが伝わりにくいのと、コメントと時系列があってない(地域の方を受け入れたくても受け入れられないというコメントはかなり初期のコメントだと思いました。)気がしたので、テーマを理解するの

にもう一度見直して、ようやくわかりました。私は、お恥ずかしながらこの番組を見るまで、いなべ総合病院は市民病院だと思っていたので、最後に市民病院ではないことがわかりました。個人の病院でもないのですがどのように表記すればよいかわかりませんが、「地域密着 唯一の民間総合病院」、「いなべ総合病院 コロナとの闘い」のようなタイトルの方がわかりやすいのではと思いました。また初めのインタビューのコメント入れも、ガイアの夜明けのような感じで、「地域医療の闘い」「地域への感謝と苦悩」など歴史の部分も初めにわかると、看護部長さんのコメントの意味がより深くなる気がしました。

2. 番組審議②

特別番組「防災減災の取り組み」

(CTY・CNS12ch /コネクト配信) 15分

令和4年(2022年) 9月放送

9月4日に開催された四日市市市民総ぐるみ総合防災訓練(主催:四日市市)に合わせ、臨時のスタジオからCTY・CNSの防災・減災の取り組みを紹介しました。またこの際には、会場となった四日市市立桜小学校から、有線を使った放送ではなく、無線中継システムを使って、訓練会場の模様もお伝えしました。同日に木曾岬町役場で開催された木曾岬防災フェアの会場とも無線中継を結びました。複数の地点から無線映像を放送するとともに、同時にコネクトアプリでも配信し、災害時を想定した体制で生放送を実施しました。

●地球温暖化の影響を受け、気候の変動が不規則になり、また大洪水の現象が各地で発生しています。また東南海地震の予告もありいつ発生するか分かりません。防災の日を設定して国をはじめ各自治体が市民を巻き込み防災訓練に取り組んでおります。日常生活の中でついつい忘れがちになりますが、いざ災害が起こるとどうなるのか、どう行動したらよいか、うらたえるばかりになることと思います。度重なる訓練により、より早く安全に避難行動ができるようにしたいものです。

●防災減災は永遠の課題だと思います。大災害後意識は高まりますが時間が過ぎれば忘れられる。特別番組ではなく地域メディアとして定期的に防災減災に関する番組は放送するべきだと考えます。また台風の季節前や3月11日、9月1日には特別枠を設け視聴者に常に意識づける様に促して欲しい。定点カメラの活用を災害時だけでなく通常時から便利に使う方法を説明するなど非常に良かったと思います。

●災害時の簡易スタジオという珍しい設定に興味を惹かれた。災害時のためのCTYの取り組みを網羅的に紹介していただき、こんな機能もあるのかと教えられた。気になったのは、情報が多いため一度では分かりづらかった。全体像の図などがあれば、もう少しわかりやすくなるかもしれない。また、70代以上の高齢者にはついていけない部分があることも感じた。高齢者対策は、今後、考えていくべき課題ではないか。

●もしもの時のための備えとして、とてもよい番組だと思いました。初めに番組内でどんなことをやっていくのかということを含め、テロップかなにかで先に見せておいた方が、何の話が取り上げられていくのかがわかりやすいと思いました。大切なところ、伝えたいところを最後にもう一度まとめてお話されると、わかりやすかったかもしれません。よくニュースやバラエティーでもあるように、片側半分は項目リストがあって、順番に消していく方式だと、今何のことにしているのか頭が整理しやすいと思います。私は防災ラジオに興味がありますが、どのように手に入れるかなどもう少し詳しく知りたいと思いました。また私たち市民が、この番組をみて、防災のためにはまずはどういう行動したらよいか明確にいただけると、より価値あるものになると思います。ちなみに先週の大雪の日は、定点カメラやL字などを参考とさせて頂き、大変助かりました。台風などの地域の災害時には、本当にありがたい情報です。今後ともよろしく願いいたします。

3. 番組制作全般に対するご意見、ご提案

●どちらも地域密着ならではの、すばらしい番組だと思いました。僭越ながら番組の作り手が、要点を抑えて、わかりやすくすることが次の課題であると感じました。あれも言いたい、これも言いたいという気持ちはわかりますが、一視聴者としては、ごちゃごちゃしていて理解しづらいところもあるように思います。

一般的にテレビは何かしながら見ていることも多く、はじめを見逃しても大事なことはわかるという構成にしていただけでありがたいです。

●制作された番組を活用した取り組みがもっとあると良い。(文化教室・若者の討論など)

以上